

3年ぶりの北海道出張の様子です。

ぼたんソバの生産地である新十津川・浦臼地域（JAピンネ蕎麦生産部会）

林さんの広大なソバ畑



8月上旬の豪雨により少し倒れ気味ではありますが、そばの実を付け始めています。



こちらで栽培しているボタンはキタワセが普及するまでは長く北海道の主力蕎麦として君臨していましたが、画像のように背が高く倒れやすいため栽培が難しく、現在の北海道での生産量は1割にも満たず、そのほとんどをJAピンネさんが管理しているため「幻の蕎麦」とも言われています。

ボタン種の特徴はなんといっても蕎麦らしい濃い風味です。当社では、この品種と胴搗そばの相性がとてもよく、水車の主力の原料品種として長年使用しています。

ボタン種の種子圃場



ボタン種の正式な種はJAピンネさんで保有しており、独自のJA職員の手で毎年種を作っています。風によって他の花粉が入らないようにするほか、蜂などによりそれぞれが交雑しないように種子圃場には高さ3Mの青いネットをかけています。

このようにして徹底管理されたボタンの種は年間わずかしか採取されず、農家の方にはボタン種を守るため必ずこの種子圃場で採れた種を購入して頂くようお願いしています。この種子圃場は生産者さんにも教えていない場所で、それだけボタン種は希少価値の高い繊細な品種と言えます。

深川市暁農場



当社が長年お世話になっている契約農場です。深川の穀倉地帯の山のふもとの広大なソバ畑で毎年良質で安定した玄蕎麦を供給して頂いています。

今年は 7~8月が雨が多い天候不順で今一つの出来との事ですが、しっかりと実がついていて新そばが楽しみです！

音威子府村

天塩川沿いの地力の高い圃場



こちらにも良質な蕎麦が取れる音威子府村です。

北海道でも指折りの広大な地力のあるソバ畑が続くそばの名産地です。

こちらにも雨が多い天候不順の年とのことで、訪問した日もあいにくの雨模様。

しかし、しっかりとした形と色がついた葉や花、つけ始めた蕎麦の実をみると期待大です！